京都府宇治田原町教育委員会　完了報告書

１．調査研究概要

全学年で毎週、月曜日から金曜日の５日間 10 分間の短時間授業枠（モジュール授業）を設定し、国語科の新出漢字の指導、漢字の習得学習及びことばのきまりなどの文法指導を行う。このことによって週１時間（50 分）の授業時間を増設する。３・４年の外国語活動、５・６年の外国語科の授業時間の増加分については､45 分間まとめた授業時間を確保し内容の充実を図る。

また、研究の２年目にあたる本年度は、カリキュラム・マネジメント、外国語教育、国語科教育の３分野についての研究をさらに推進するとともに、町内２小学校において「宇治田原スタイル」による時間設定､「宇治田原スタンダード」を用いた新出漢字指導等を行うモジュール授業を実施し、より効率的、効果的な学習方法の研究を行う。

（年間実施スケジュール）

月	取組内容
４月	中学年における外国語活動、高学年における外国語科先行実施 モジュール授業（パターンＡ）実施 第１回合同ＲＰＣ（研究推進会議）
６月	第１回カリキュラム・マネジメント検討会議 第２回合同ＲＰＣ（研究推進会議） 第１回町立２小学校合同カリキュラム・マネジメント研究会 第２回町立２小学校合同カリキュラム・マネジメント研究会
７月	宇治田原町小学校統一漢字テスト
８月	小中一貫教育全体研修会「カリキュラム・マネジメントの概要と意義」 第３回町立２小学校合同カリキュラム・マネジメント研究会 管外研修（国語科教育Ⅰ、Ⅱ） モジュール授業（パターンＢ）実施
９月	第３回合同ＲＰＣ（研究推進会議）
10 月	第２回カリキュラム・マネジメント検討会議
11 月	カリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究発表会 第４回合同ＲＰＣ（研究推進会議）
12 月	宇治田原町小学校統一漢字テスト
１月	モジュール授業（パターンＤ）実施 第４回町立２小学校合同カリキュラム・マネジメント研究会
２月	第３回カリキュラム・マネジメント検討会議 児童、保護者アンケート 第５回合同ＲＰＣ（研究推進会議）
３月	宇治田原町小学校統一漢字テスト 第６回合同ＲＰＣ（研究推進会議）

２．調査研究の内容

２－１　調査研究の内容

(1)研究目的

新学習指導要領の実施による外国語科・外国語活動の時間増に対応し、児童の実態に即した時程、内容、授業方法について工夫改善を行い、児童の学習意欲を高めるとともにより教育効果の上がるカリキュラムを創造する。

(2)研究テーマ

より教育効果を高める時程の研究　～10分間のモジュール授業を通して～

(3)研究体制

ア　検討会議　　年３回実施
イ　各校ＲＰＣ（研究推進会議）　　月１回程度実施
ウ　合同ＲＰＣ（研究推進会議）　　年５回実施

(4)カリキュラム・マネジメント研究構想

ア　プランＡ … ７校時目の授業を実施する方法
イ　プランＢ … ５校時授業日である水曜日に６校時目の授業を実施する方法
ウ　プランＣ … 長期休業を短縮する方法
エ　プランＤ … 土曜日に授業を実施する方法
オ　プランＥ … 45分を３分割しモジュール授業を実施する方法
カ　プランＦ … 45分を５分割しモジュール授業を実施する方法

(5)研究の概要（研究の３本柱）

ア　カリキュラム・マネジメント研究（プランＦ「宇治田原スタイル」）

(ア)宇治田原スタイルの特徴

ａ 時程におけるメリット

・週５日間連続して10分間のモジュール授業を行うことで、授業枠を増やさず週１時間、年間35時間授業時数を増やすことができる。
・全校一斉にモジュール授業を行うことで学校全体の生活リズムを安定させることができる。
・増加時間のない低学年（１・２学年）の週程表から１時間ずつ授業枠を減ずることができる。

ｂ 国語科の中でも分野を絞って行うことのメリット

・「新出漢字の指導」「既習漢字の習熟」「文法の習熟」等に限定することで、10分間での指導効率が高く、不測の事態が生じても臨機応変な対応を可能とする。
・新出漢字の指導を１日に１～２文字だけに制限することで、児童の学習量の負担を軽減することができる。
・多くの教員がまだ不慣れな外国語科・外国語活動の授業ではなく、他教科に比べ

ても授業時間数も多く指導慣れしている国語科で実施することは教員の過重負担を軽減できる。

(イ)宇治田原スタイルの時間設定

ａ 時程の調整

・「朝の会・朝学習」「中間休み」「清掃時間」を５分短縮した合計15分間に通常の５分間を足した20分間を使用する。

・５分間の「休憩・移動時間」の後、10分間の「モジュール授業」、その後５分間の「休憩・移動時間」で構成する。

・児童の学校滞在時間を基本的に増やさない。

ｂ 時程のパターン

(a) Ａパターン … １・２校時の間（１学期実践）

(b) Ｂパターン … ３・４校時の間（２学期実施）

(c) Ｃパターン … 清掃と５校時の間（午前中に学校行事等がある場合）

(d) Ｄパターン … ２校時と中間休みの間（３学期実施）

(ウ)研修

ａ カリキュラム・マネジメント研修Ⅰ

・日時　平成 30 年８月 21 日（火）10:00～11:00

・場所　宇治田原町立維孝館中学校

・内容　カリキュラム・マネジメントの概要と意義

・講師　京都府総合教育センター　森山　隆仁 研究主事兼指導主事

イ　外国語科・外国語活動に係る研究

(ア)外国語科・外国語活動についての考え方

10～15分間の短時間枠で行う授業は時間的な余裕がなく、さまざまな工夫を凝らすことに制限がある。しかし、45分間を１単位とする時間枠で授業を計画すると時間的な余裕が生まれ、児童の実態などを考慮した幅を持った授業展開が可能となりより効果的な授業を組み立てやすい。

(イ)45分間を１単位とした授業のメリット

・45分間を３分割した15分という短い授業時間枠で実施すると、毎回、導入にかける時間（「イントロダクション」）が必要になるが、それに比べて「イントロダクション」を減らすことができる。

・展開やまとめに充てる時間に余裕ができ指導効率を上げることができるとともに、十分な見通しを持って授業を行うことができる。

・教材研究において工夫改善を図る余地も多く自信を持って指導に当たることができる。

(ウ)外国語科・外国語活動の指導方法の工夫

児童と児童、児童と教師の相互コミュニケーションを重視した授業を行うことによって外国語のおもしろさや楽しさ、伝え合うことの達成感を高めながら外国語に対する理解を深める。

ａ　絵本を使ったイントロダクション

ｂ　「Small Talk」による会話慣れ

c　ＡＬＴの効果的活用

（エ）研修

a 外国語科・外国語活動研修Ⅰ

・日時　平成 30 年８月２日（木）16:00～17:00

・場所　宇治田原町立宇治田原小学校

・内容　新学習指導要領の移行期間における外国語活動の進め方

・講師　京都府総合教育センター　長島　正博 研究主事兼指導主事
竹本　　恵 研修・支援部研究員

ウ　国語科に係る研究

（ア）モジュール授業に係る年間指導計画について

a 「新出漢字」「漢字の習熟」「文法の習熟」を効果的に配置

・全175枠（平成30年度は実質198枠）のモジュール枠に学年ごとに配置

・児童の学びやすさ、教員の指導のしやすさを追究して開発した「モジュールプリント」の活用

b　新出漢字指導についてのカリキュラム・マネジメント

・次年度の新出漢字を３学期末に前倒し指導

・漢字の画数による組み合わせの工夫

・「新出漢字指導」と「漢字の習熟」の組み合わせ

c　第１学年における「ひらがな」「カタカナ」の習熟指導やことばの世界を広げる学習の実施

（イ）モジュール授業における漢字指導

a 「宇治田原スタンダード」について

電子黒板を活用した漢字指導方法を「宇治田原スタンダード」と名付け、全校で統一した方法での指導を実施

(a) 音訓の読みや漢字の使い方

(b) 漢字のポイント指導

(c) 「空書き」

(d) 「指書き」

(e) 「鉛筆書き」（「なぞり書き」「練習書き」「＋１」）

(f) 「たしかめ」

b 「モジュールプリント」について

「宇治田原スタンダード」の指導の流れに合わせた新出漢字練習用プリントを作成

c 「指書きシート」について

「指書き」指導に用いるＢ５版のマス目シートを作成し、「たしかめ」の際の練習部分を覆うためのツールとしても活用

（ウ）モジュール授業における文法指導

本年度は年間10回程度実施したが、今後はドリル学習や開発中の文法習熟ソフトの活用等による拡充を検討している。

（エ）研修

a 国語科研修Ⅰ

・日時　平成 30 年６月 27 日（水）15:30～17:00
・場所　宇治田原町立宇治田原小学校
・内容　国語科における言語活動の充実について
・講師　京都府総合教育センター　伴　昌也 研究主事兼指導主事

ｂ 国語科研修Ⅱ
・日時　平成 31 年１月９日（水）15:30～17:00
・場所　宇治田原町立宇治田原小学校
・内容　モジュール授業について（学年部会）
３学期の次年度４月単元の先取り新出漢字指導の計画
来年度の「モジュール授業年間指導計画」の見直し　等

(オ)管外研修

ａ 国語科教育Ⅰ
・日時　　平成 30 年８月 23 日（木）～24 日（金）
・視察地　ホテルメルパルク岡山
・内容　　西日本地区国語問題研究協議会

ｂ 国語科教育Ⅱ
・日時　　平成 30 年８月６日（月）～７日（火）
・視察地　エテルナ高崎
・内容　　東日本地区国語問題研究協議会

３．実践地域全体としての調査研究の結果明らかとなった成果や課題と改善方策

（○：成果，●：課題）

○10 分間のモジュール授業の前後に５分間の「休憩・移動時間」を組み入れることで児童が気持ちを切り替えることができ、学習意欲を高めるとともに指導効率の向上につながった。

○全校でモジュール授業に取り組んだことによって、全校児童が同じ時程で学校生活を送ることができるとともに、同じリズムで学習できている。また、指導時数の増加が求められていない第１学年と第２学年の指導時数を週あたり１時間減らすことができ、気力、体力面に配慮した指導が実施できた。

○校時表を見直すことによって、児童の下校時刻を遅らせることなくモジュール授業の時間を生み出し、放課後の児童の生活を変化させずに授業を行うことができた。また、教職員にとって勤務時間の中でも高いレベルの緊張を強いられる児童の学校滞在時間を極力増やさない工夫は、教職員の働き方への配慮になると考える。

○新出漢字を毎日 10 分間に１～２文字ずつ、教材文の読解に支障をきたすことなく計画的に学んでいく「宇治田原スタンダード」による全校統一方式の新出漢字指導は、児童にとって負担が少なく安心感と自信を持って学習に取り組むことができている。また、必要最小限で無駄の少ないテンポよい指導に、児童は慣れ親しむとともに熱心に取り組むことができている。今後指導を継続することでさらに学習意欲の高揚と指導効率の向上が期待できる。

○年度末に次年度の新出漢字の先取り指導を行うことによって、次年度当初の国語の指導をスムーズに実施することができる。このことによって慌ただしい年度当初の指導に余裕が生まれるとともに、円滑な導入が可能となり教育効果は上がると考える。

○モジュール授業で行う年間 35 時間の時数の内、国語科から捻出する時数は最も多く使う第６学年で 14 時間である。残りの指導時数を予備時数から運用することで国語の指導時間は標準

時数を上回る指導時数となる。現代の我が国の児童の「言語力の不足」が叫ばれる中、国語の指導時数を増やし、「新出漢字の指導」や「既習漢字の習熟」の時間を充実させるとともに「文法の習熟」を図ることは、言語力の育成を推進することにつながると考える。

○「宇治田原スタンダード」の指導方法に合わせて作成した「モジュールプリント」や教員のニーズに応じて開発した学習ソフトは、学習内容の習得を図る上で大変効果的であった。今後も研究の方向性に合わせてソフトの改良を行うことを視野に入れている。

○新学習指導要領を先行実施している外国語活動は、第３・４学年週１時間、第５・６学年週２時間を全て 45 分単位での授業枠を組むことができ、全ての授業にＡＬＴの配置と「外国語ルーム」の使用が可能となった。このことによりＡＬＴを十二分に活用してスタンダード化した本町の授業モデルによる外国語科・外国語活動の指導効果は確実に高まると考える。

●「宇治田原スタイル」は 10 分間の授業の積み重ねによって年間 35 時間の授業時数を生み出しているが、10 分間という時間は短いため突発的な事柄によってモジュール授業が実施できないことは、教育課程の実施上看過できない事項である。「宇治田原スタンダード」の指導方法の研修を重ね、教員一人一人のカリキュラム・マネジメントについての理解の徹底を図るとともに、教務部による厳格な進行管理のもと、１コマ１コマ確実に授業実践を積み上げる必要がある。

●モジュール授業における新出漢字指導は「宇治田原スタンダード」や「モジュールプリント」等によって全校統一方式で実施、効果検証を行ったが、習熟や文法指導についてはそれぞれ担任の裁量での実施であった。今後、より充実した指導となるよう研究を進める必要がある。